

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 28 年度病虫害発生予察速報第 1 号について

このことについて、病虫害発生予察速報第 1 号(イネ縞葉枯病)を発表したので送付します。
ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、年々低下傾向にありますが、今後のヒメトビウンカの発生量によっては、発病が多くなる可能性もありますので、適切な防除指導をお願いします。

速報 第 1 号

1 対象作物:水稲

2 病虫害名:縞葉枯病

3 発生地域:県下全域

4 速報の根拠

平成28年5月に県内14地点の小麦穂からヒメトビウンカの越冬虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を簡易エライザ法で検定した。

その結果、保毒虫率は平均1.1%で、年々低下傾向にある(図1)。また、越冬虫の保毒虫率が5%を超える地点は確認されず、保毒虫率が急増した地点もなかった(表1)。

なお、越冬虫の保毒虫率が5~6%を超えると、経済的被害水準(縞葉枯病発病株率 10%)に達するとされている(岸本ら、1985年)。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水稲苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- (2) ヒメトビウンカに効果の高い箱施薬剤を施用する。
- (3) 移植直後の水稲へのヒメトビウンカの飛び込みを減らすため、麦の収穫から水稲移植時期までの間を可能な限り長くする。
- (4) 5月下旬~6月上旬移植のほ場では、移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は防除を実施する。

今回の検定では該当する地点はないが、特に保毒虫率の高い(5%以上)地域、及び前年度本病が多発生した地域(主に早植えほ場)では、上記の対策を徹底する。

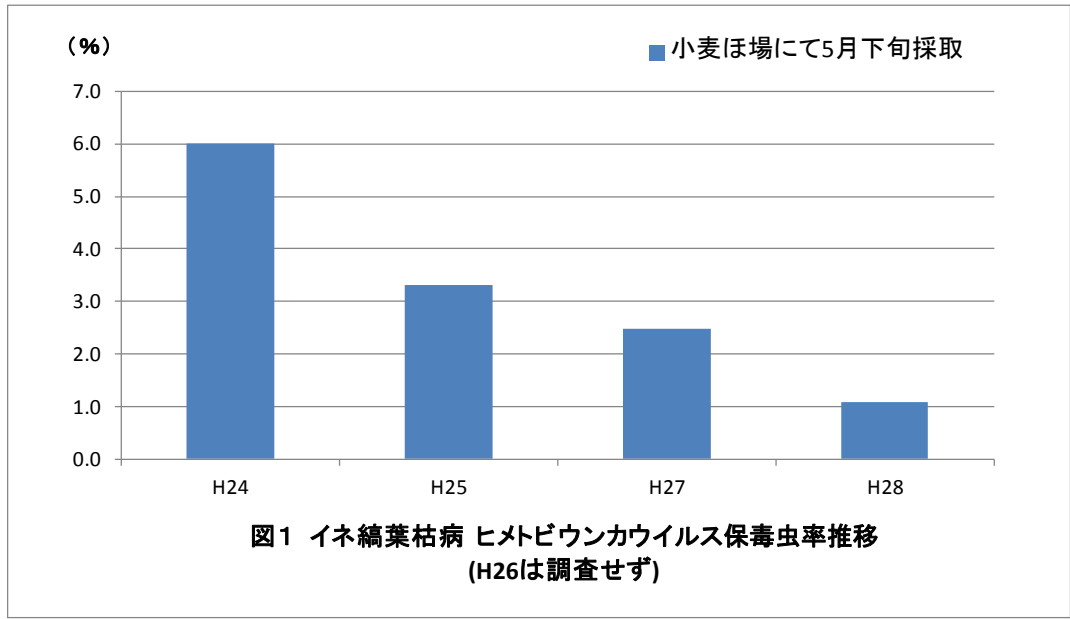


表1 ヒメビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率 小麦穂すくい取り

	地点名	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率	H27保毒虫率
1	糸島市松末	94	0	0.0	-
2	糸島市御床	81	1	1.2	-
3	宗像市朝町	94	2	2.1	5.3
4	久留米市宮の陣町	94	1	1.1	3.2
5	小郡市力武	94	0	0.0	1.3
6	うきは市山北	94	2	2.1	2.1
7	朝倉市馬田	94	4	4.3	1.1
8	筑前町野町	94	2	2.1	2.1
9	嘉麻市中益	94	0	0.0	4.3
10	糸田町打越	94	0	0.0	3.2
11	八女市立野	94	0	0.0	2.2
12	大川市北古賀	94	0	0.0	2.1
13	柳川市大浜町	94	0	0.0	0
14	上毛町吉岡	94	2	2.1	-
	合計	1,303	14	1.1	2.5

-: 虫数は確保できず、検定せず
NO12, H27の地点はみやま市山川町